



クリエイティブ・パワー

——愛、それは創造する力！

バート・バーンズは、壁にかけてある絵画を称賛し、絵の下に書かれている二行連句の詩の作者が誰かたずねましたが、誰も知らないようでした。ところが、その時、一人の少年が恥ずかしそうに脇にやってきて、作者の名を告げ、その詩の残りをそらで言ったのです。バーンズは驚き、少年の頭に手を乗せてこう賛辞しました。「ああ、君はいつの日かスコットランドの偉人となるだろう。」その日から、ウォルター・スコット少年は別人となりました。この励ましの一言が、偉人への道を開いたのです。

このような愛や知恵の一言が、いかに誰かの人生に影響を及ぼすかは計り知れません。デービッド・ブラント・バーグは、著書の各所で「愛には、創造する力がある」と語っています。なぜなら、「神は愛の霊であり、神はその愛によってすべてを創造された」からです。だから、心が神の愛で満たされているなら、私たちが誰かの人生を素晴らしいものにしていく手助けができるのです。

◆ ◆ ◆

愛は盲目ではない。愛には霊の目があって、他の人には見えない良い所や可能性が見える。愛には造り出す力がある。神は愛であり、神は創造主だから。そして、神の助けがあれば、私たちの信仰もまた、何かを造り出すことができる。

—デービッド・ブラント・バーグ

◆ ◆ ◆

私は人を見る時、その人の内に、人生の背景や状況という境界内に閉じ込められた人物ではなく、神の息吹と御わざを見る。そして、その人が神が用いられるにふさわしい器となる可能性を見る。自分の内に秘められた可能性に気づいてこそ、人は人間性という制限から抜け出して、神の御霊の豊かさを自らの内に自由に流れさせることができる。

—ジョン・L・ブラント

◆ ◆ ◆

愛は何でも美しくする薬。

—ルイーザ・メイ・オルコット

◆ ◆ ◆

彼に「素敵な人」と言いなさい。そうすれば彼は素敵な人になる。彼女に「美しい」と言いなさい。そうすれば彼女は美しくなる。

—デービッド・ブラント・バーグ

たった一言が、人をダメにすることもあれば、人の可能性を引き出すこともあるものです。

ある日、仕事から帰ったナサニエル・ホーソーンは、どん底を通り越し、ほとんどやっばちの状態でした。それまでの政府高官の地位を失ってしまったのです。その時、帰宅した夫を迎えた妻は、どうしたでしょうか？

彼女は機嫌の悪い夫を責めたり、無視したりはせず、暖炉に火をつけ、テーブルの上にそっとペンとインクを置いて、こう言ったのです。「さあ、今ならあなたの本が書けますよ。」

ナサニエルの肩に優しく置かれた妻の手からは、暖かなぬくもりが伝わってきました。こうして妻に励まされたナサニエルは、「緋文字」を発表し、それはアメリカ文学における名作となったのです。

スコットランドの詩人ウォルター・スコットについてのこんな話もあります。彼は子供の頃、ひどく出来の悪い子で、教室ではいつも、罰として紙製のとんがり帽子をかぶらされ、劣等生用の席に座らされていました。しかし、12、3歳の頃、たまたまある家で著名な詩人たちが客として訪れている所に居合わせました。客の一人、スコットランド人の詩人口